

ACT!



MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団



1999年
ノーベル平和賞受賞

支援者さまと国境なき医師団(MSF)をつなぐニュースレター

2024年8月号

身体と心の回復を支える医療 明日を拓くリハビリ

重いけがや病気になった患者にとって、手術や治療の後に必要となるのが「リハビリテーション医療」。身体機能の回復や、自分らしさを生かした社会復帰を支える医療です。患者の明日を拓く、リハビリのさまざまなかたちを紹介します。

事故で右脚を切断。いまや車いすバスケットを楽しむまでに

7年前、事故で右脚を切断したビアンヴェンヌさん。中央アフリカ共和国で国境なき医師団(MSF)が運営するシカ病院で外科手術を受け、リハビリに打ち込んできました。義足の扱い方に始まり、階段の昇降や1~2

時間立ち続ける方法などを特訓。いまや週に5回、リハビリを兼ねて車いすバスケットを楽しむまでに回復しました。「体を動かすとストレス発散になるし、いまの自分の力をもっと伸ばせるから」。はじける笑顔でそう語ります。

66 爆弾による傷で脚の感覚を失った少女が再び歩み出すまで 99



7年前のリーマーさんと父。リハビリ中の娘を、家族は献身的に支え続けた。

以前のような生活に 戻れる日が来るなんて、 思ってもみませんでした



リーマー・アル・
フーラーニさん

シリアのダルアーにあった私たちの家に樽爆弾^{*1}が2つ落下したのは、2015年のことです。当時を思い出すと、いまでも火薬のにおいを感じますし、息ができないような苦しさに襲われます。空爆で地面が揺れ、家のレンガやガラスは砕け散り、爆発の勢いで私たち家族は部屋の外に放り出されました。この日、兄が亡くなり、姉は顔にやけどを、私は両脚に重傷を負いました。

攻撃は日に日に激しさを増し、兄の死から半年後、ついに隣国のヨルダンに一家で避難しました。シリアにいる間に病院に行っていたものの、私の脚は骨折したまま。自分では歩けないし、他の子

と一緒に遊ぶこともできないし、ずっとふさぎ込んでいました。

リハビリを続けるうちに 脚の感覚がよみがえった！

滞在先のアズラック難民キャンプで「脚を治すために」と紹介を受けたのが、MSFのアンマン再建外科病院でした。

2016年6月に初めて入院した頃は、リハビリといえただ痛くて怖いものでした。脚の上げ下げから恐る恐る始めて、ラシード医師や理学療法士さんたちに励まされるうちに、訓練が楽しくなっていたんです。最初は脚の感覚がなかったのが、徐々に戻ってきて、やがてつま先の動きまでわかるよ

うに。たった1回の入院で、装具をつけて歩けるまでになりました。

「私は一人じゃない」と わかって、気持ちが楽に

看護師さんたちが私を見かけるたびに「よくやったね」と褒めてくれたことは、幼かった私の心の支えになりました。また、入院中にイラクやイエメンなど他の国から来た子どもたちと知り合えたのも貴重な経験でした。「私は一人じゃない」とわかって、すごく気持ちが楽になったんです。境遇を嘆くよりも、「命が助かったし、この程



理学療法士(右)と父に見守られながら、歩行訓練に励むリーマーさん。

度で済んでよかった」とさえ思えるようになりました。

脚が人より短くなって、^{けん}腿も切れたのは事実。でも、着実に治っているし、何より再び歩けるようになったことに感謝しています。以前のような生活に戻れる日が来るなんて、思ってもみませんでした。

最近では、自分の将来も前向きに考えられるようになりました。いつか祖国のシリアに戻れたら、この病院で助けられた経験を生かして私も医師になりたい。傷ついた人を救える人になりたいです。

※1：樽やドラム缶に爆薬や金属片などを詰めた爆弾。市民への無差別攻撃に使われている。



© Shereen Nanish/MSF

ラシード・ファクリ
アンマン再建外科病院
外科医

痛みや悲しみを抱えた患者が 再起を図る手助けを

私たちの病院には、爆弾で重傷を負った子どもたちや、話す能力や視力を失った人など多様な患者が中東全域からやって来ます。私たちは一人一人異なる痛みや悲しみを抱えた彼らと向き合い、治療とリハビリを提供してきました。患者が負った心身の傷を癒やす。そして、リーマーさんのように“希望”を取り戻し、再起を図る患者を手助けするこの仕事を、私たちは心から誇りに思っています。

66 すい 水がんの後遺症を克服し、患者を支える側へ 99

障害はある。でも、何にだって 挑戦する力もまた あるはずです



ムリカット・
オカンラウォン
ソコト水がん病院
衛生担当者

私が水がんににかかったのは幼い頃です。何の病気かもわからないうちに、み

る顔が破壊されていきました。すぐに治療を受けられたおかげで一命は取り留めましたが、顔の左側に穴が開いてしまいました。

水がんににより顔が変形すると、見る・話す・食べる・呼吸するなどの機能に障害が残ります。私もそれからは人付き合いが難しくなりました。誰も私と一緒にいたがらない。話したがらない。周りの人たちが、自分を避けて通る生活を想像してみてください。私自身、鏡を見ることすらできず、家に閉じこもって泣いてばかりいました。

その後、幸運にもソコト水がん病院で再建手術を受けることができました。手術が成功してから、私は自分の写真を撮れるようにな



同じく水がんに克服した同僚、ダヒル(左)とモハンマド(右)と共に病院を支える。

り、人付き合いも再開しました。水がん病院で料理人として働き始め、もっとキャリアを積むために進学も決めました。「君は変わったんだろう。次は恩返しする番だよ」と病院の先生に励まされたんです。

私は健康情報管理を学び、2018年1月からはMSFの衛生担当者として働いています。水がん病院を清潔に保ち、患者や介助者への衛生教育を行い、心のケアの部門も手伝っています。水がんから生還した人たちをサポートするためです。経験を分かち合い、「命がある限り、希望はある」と伝えます。障害はある。でも、何にだって挑戦する力もまたあるはずです。

Column

最新技術と思いやりで社会復帰を支援 アンマン再建外科病院(ヨルダン)



アンマン再建外科病院の入り口。毎日多くの患者が訪れる。

2006年、イラク戦争で銃弾の傷や重度のやけどなどを負った患者に専門的な外科治療を提供するために、MSFが設立したアンマン再建外科病院。戦争で一命を取り留めたけれど身体と心に傷を負った人びとに寄り添い、心身の再生を多方面から支援してきました。

2015年には治療対象をイエメンやパレスチナなど中東全域の紛争で負傷した人びとに拡大。整形外科や形成外科などの治療のほか、理学療法、心のケアなどのリハビリ支援も行っています。

これまでに7000人を治療し、外科手術は年間1000件以上を実施。

入院中の子どもが過ごしやすい環境を提供する。



義手や義足をすばやく精緻に作れる3Dプリンターをはじめ、革新的な技術もいち早く導入してきました。子どもの患者のために院内に



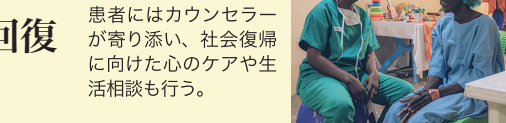
3Dプリンターを使うと、患者一人一人に合った義手や義足をスピーディーに製作できる。

学校や交流スペースを設け、患者の家族のための宿泊施設も用意。安心して長期のリハビリに臨める体制を整えています。

Column

顔の変形を修復し機能を回復 ソコト水がん病院(ナイジェリア)

水がんは骨や皮膚など顔の組織が破壊される口内炎の一種。数週間で患者の約9割が亡くなり、命が助かっても頬や鼻、目などに重い後遺症が残ります。ソコト水がん病院では破壊された顔の部位を皮膚移植により再建する手術を実施。患者の機能回復や社会復帰を支援しています。



予防も治療も可能な水がん。病気や予防方法の啓発のため、地域で衛生教育を行っている。

～終わらせたい、強いられたい旅路～

エンドレスジャーニー展・東京（入場無料）

世界の難民・避難民の状況を伝えるエンドレスジャーニー展を、5年ぶりに東京で開催します。
さまざまな展示物を用意しておりますので、ぜひご来場ください！



© MSF

2022年に開催したエンドレスジャーニー展・福岡の様子。

本展は、難民・避難民の人びとの現状と国境なき医師団(MSF)の医療・人道援助活動についてお伝えする体験・思考型の展覧会です。会場では、難民・避難民の人びとが強いられたい移動や医療ニーズがわかる大型写真パネルや、MSFが現地で使用している道具、難民の人びとが描いた絵などをご覧ください。テント式手術室や現地で設置したトイレも再現。スタッフによる解説ツアーも実施する予定です。

会場を赤で埋めつくそう！

ロゴを含め、MSFの色といえば赤。故郷を逃れ過酷な状況で暮らす難民や避難民へ日本からの共感と連帯を表すために、帽子や靴、アクセサリなど、赤いものを身に着けてぜひ会場へお越しください。

支援者さま限定記念品をご用意

ご来場の支援者の皆さまに感謝の気持ちを込めて、ささやかな記念品を差し上げます※。当日、こちらの『ACT!』をスタッフにお見せください。
※数に限りがございますので、あらかじめご了承ください。

リハビリ特集はいかがでしたか？

実は『ACT!』で初めてリハビリを特集しました。ぜひ今号の感想を教えてください。コメントは事務局員で読み、今後の参考にさせていただきます。

締め切りは2024年 9月30日(月)です。



●開催日時：2024年10月31日(木)～11月4日(月祝)
10:00～19:00

●会場：丸の内ビルディング1階 マルキューブ
(〒100-6390 東京都千代田区丸の内2-4-1)
アクセス：JR各線、丸ノ内線「東京駅」直結

●事前登録：不要

詳細はこちらから



※内容や開催日に変更がある場合もあります。
最新の情報は国境なき医師団ウェブサイトをご覧ください。

遺贈寄付相談室 だより

“とことんやさしい”遺贈寄付のための遺言書ガイド。

「やさしい遺言書」ができました。

遺贈寄付には
興味があるけれど、
遺言書って
どう作成するの？

←そんなお声にお応えして、わかりやすく書きやすい書き方の手引きを作りました。お電話またはメールで、遺贈に関する資料をご請求いただいた方に無料でお送りします※。お問い合わせの際に「『ACT!』を見て」とお伝えください。

※9月2日(月)以降順次発送



© Ayano Kinoshita

TEL 03-5286-6430

Eメール：legacy@tokyo.msf.org

平日10:00～17:00 / 担当：荻野、今尾



© MSF



© MSF

ニュースレター **ACT!** 2024年8月号

発行元 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料

平日9:00～18:00 / 土日祝日、年末年始休業

※ご住所など、ご登録の情報についての変更や、「毎月」の寄付の変更は上記までご連絡いただくか、マイページでお手続きください。

マイページ参照は
スマートフォンから



国境なき医師団ウェブサイト www.msf.or.jp



※2024年6月の情報を基にしています。
最新の情報は国境なき医師団ウェブサイトをご覧ください。